

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム 竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12-106
自己評価作成日	平成21年8月5日(水)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 9 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境が良い:児童館・保育所・病院・神社・商店街など近く、田や畑など自然にも恵まれている。川の近くで土手は、交通量も少なく近隣者の散歩コースにもなっている。毎日の生活がマンネリ化しないように、外出の機会を多くしたり、季節感を味わえるような工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営するホームは、入居者、職員の健康管理に努めており「歩かないと足が弱くなる。寝たきりにしたくない。」という職員の思いがあり、利用者に寄り添い毎日の散歩を行っている。職員の対応は優しく、利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位でケアを行っており、利用者の表情が穏やかで明るい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム竹の園

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 清水 千明

評価完了日 平成21年8月5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で、話し合い作成した。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合いを行い、地域とのつながりを大切にしながら一人の人間として接することの大切さを具体的に表現した理念になっている。職員間でしっかり共有しケアの実践に繋げることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ご近所の方と出合った時、挨拶など日常おこなっており納涼祭にも招待した。</p> <p>(外部評価) 日常的な散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、ホームでの行事に招待したりしている。また、隣接する保育所からの訪問を受け入れたり、地域の障害者施設主催のそうめん流し等に参加するなど交流を行っている。</p>	<p>行事を通しての交流は行われているが、日常的なつきあいができているとまでは言えない。ホームとしても十分でないと考えており、今後普段着でのつきあいができるような工夫がなされることを期待したい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地方祭などには参加させて載っているが貢献するには至らない。中学生の体験学習には協力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議メンバーには学識経験者や地域の有志の方で、アドバイスも多くできるだけ意見を活かすよう心掛けている	
			(外部評価) 利用者や家族、地区の学識経験者、市の担当職員等の参加があり、ホームの実態報告やイベント開催のお知らせ等もしている。参加者からは活発な意見が出されており、出された意見は運営に活かすよう心がけている。	多角的な視点から意見がもらえるように、専門家に参加してもらう等、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 普段より気兼ねなく声掛け、職員の研修にも、行政報告・介護保険の現状など、講演を頼んだりしている	
			(外部評価) 市担当者は、運営推進会議のメンバーで、ホーム内研修の依頼をすることもあり、気軽に相談できる良好な関係を築いている。介護相談員も、年2回来園してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の交替もあるので、研修に参加して、理解するよう心掛けている	
			(外部評価) 外部の研修会や内部の研修を行ったり、日々の業務の中で十分に話し合いを行い、職員全員で拘束をしないケアに心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 担当者は常に行動を把握して、全職員に個別ケアを統一するよう相談し、防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修に参加し資料を全職員で見るとし、理解に努めているが、難しい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明は出来ているが、家族と話がうまくいかない方もある。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事を行う際は、来訪時に意見を伺い決める事にはしているが、全員の満足には至らない。 (外部評価) 利用者、家族が運営推進会議に出席し、意見や思いを表せる場を設けている。また、職員は家族の面会時にも意見を聞く努力をしており、利用者一人ひとりの意見や要望を運営に反映させるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全面的に反映とは言えないが、意見や提案を聴く場を設けて、月1回の幹部会に出している。 (外部評価) 月1回行われる勉強会や、年1回の施設長との面談で意見や提案を聴く機会を設けている。管理者等は職員の意見を運営や経営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格手当や夜勤手当が今年からUPした。 今年も介護福祉士の受験者がいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県のGH研修会・在宅介護研修・認知症研究グループ研修など、出来るだけ出席するよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のGHを訪問し、良い点は取り入れる	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) GHの体制を説明しながら、本人が安心して居られるよう努力している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 月1度の来訪時に要望・不安などを聴き、急な事はTELで相談している	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療との連携もあり、まず安心して戴き、家族の希望はなるべく受け入れて、サービスに努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に生活し本人の経験して来られた事を学び暮らしていく	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族交流の場としてお花見・納涼祭などを行い本人が家族と逢え笑顔の出る関係を支える	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人・知人の来訪時には続けて来て戴くよう声掛けしている。花札など楽しめる。 (外部評価) 利用者のほとんどが地元出身者で、手作りのお菓子など持参してくれる地元の知り合いとの交流がある。また、他のグループホームとの交流で馴染みの人と逢うこともできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 出来るだけ居室に閉じこもらずホールに出て皆で会話されるよう支援する	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 帰宅でサービスが終了しても自由に来てもらい入居者と話して貰うよう声掛けしている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 呉服店をされていた方には縫い物を用意したり、農家の方には草取り野菜作りをお願いしたりして、一人ひとりの思いを大切にしている	
			(外部評価) 希望や意向の把握に努めている。意向を上手く伝えられない利用者の場合は、家族等から聞き取りした情報等を活用し常に利用者本位で考えるよう努めている。把握した情報はセンター方式を活用して記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族にこれまでの生活歴を聴き、得意な事、楽しく思われる事を支援する	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の流れの中で会話しながら、体調の観察を行う	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者会議を繰り返し行い、その都度良い意見やアイデアを取り入れる	
			(外部評価) 介護計画は家族の面会時に希望や意見を聞き取るようにしている。計画の見直しは3か月に1回の定期と状態が変化した時に行っている。気づきは1か月毎に記録簿に記入して整理する等、情報を職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を個別ケアに記録し、申し送りを密にして情報を共有している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) GH相互の交流やボランティアを受け入れ、演芸を楽しんで貰っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 文化祭や障害者施設の行事に参加したり、本人の希望があれば、理美容院・銀行・郵便局への送迎をしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している (外部評価) 入居前からのかかりつけ医や、利用者や家族が希望す る医療機関を受診している。通院介助は職員が対応 し、緊急時は家族にも必ず同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職が不安である時は、看護師さんに相談・受診な どしている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は洗濯物を取りに行った時、様子を伺い家族と の連絡も密にしている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 概要を記載した指針はあるが、終末期には病院が多い 家族との相談による所が大きい (外部評価) 看取りに関する指針が整備されており、利用者や家族 が希望をすれば、看取りができることを利用開始時 に伝えている。利用者が安楽に終末期を迎えるために、 職員全員が研鑽に努めている。	終末期を迎える利用者やその家族を心身ともに支えて いくことができるよう、職員が研鑽できる研修等の機 会を増やし、技術や知識をさらに高めることを期待し たい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防職員に指導を受けて、緊急時の救急救命の講習を行っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地元消防署にお願いして、年2回消防訓練や避難訓練を行っている (外部評価) 実践的な避難訓練を消防署の協力を得て、定期的に年2回行っており、緊急連絡網も整備されている。来年度にはスプリンクラーを設置する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) おおそ対応している (外部評価) 不安感のある利用者に対し、職員はその都度優しく声かけしており、心落ち着くまで何度もこやかに対応する様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望に応じて支援している。希望がでない方は家族と相談している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来ている。希望により美容院の出張も利用している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みを聴いても中々出ないので栄養士の立てた献立になることが多い。季節感を楽しむようその都度メニューの変更をしている	
			(外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでおり、食事風景は大変穏やかで、何度も「美味しい、美味しい」という声が聞かれた。食後の下膳や台拭きを利用者が行っている時は、職員は無理のないように見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 医師の指示により水分や栄養面を考慮、検査にて様子などみている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い 週1回除菌（義歯）コップ・ハブラシは隔日に行う	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) している。排泄時間をチェックし、見計らってトイレ誘導している	
			(外部評価) 日中は排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行いながら、トイレを使用している。夜間は利用者の状況に応じて紙パンツや尿取りパットを使用している。周囲に十分な配慮を行ないながら、声かけや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 医師と相談しながら個別に予防している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 通院・注射・熱発などで希望どおりにならない時もある	
			(外部評価) 利用者からは毎日入浴したいという希望もあるが、毎日の対応は難しく、部分浴や清拭を行う等の代替策を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各室エアコンがあるので、希望の室温にしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果・副作用などを理解して、症状の観察をしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った役割にし、無理の無い程度で。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望により対応している	
			(外部評価) 「歩かないと、足が弱くなる」との職員の思いがあり、毎日散歩に出かけている。また、利用者から外食の希望がある場合は、回転ずしに行くなど対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣い程度は所持されて菓子・果物など買われる	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が自主的にされる 出来ない方は代行し、会話はされる	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を生けて季節感、生活感を工夫している	
			(外部評価) 大きな窓からは適度の光が入り、緑豊かな景色が見られ、玄関等に季節の花が飾られている。適度な広さの共用空間には隣接した児童館からの子供達の声が聞こえ、人とのつながりを感じさせる落ちついた空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者さん同士トラブルのないよう声掛けしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物をと家族には説明するが、入居時に新しく買って来られる人が多い	
			(外部評価) 居室の名札は手作りで、それぞれの入居者の目の高さに合わせた位置にあり分かりやすい。馴染みの家具を持参することもでき、ベッドの使用を好まない利用者には、畳を敷いて布団を使用する等状況に合わせた対応をしている。本や家族の写真を飾り居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 椅子に杖立・足台で姿勢の調節・ウオーカー利用者が移動しやすいように、工夫している 部屋が解るよう大きく名前を書いている	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400275
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム竹の園
所在地	愛媛県西予市野村町野村12-106
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 9 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者さんの思いを大切にその人らしい生活の支援 ②落ち着いた生活の支援 ③近くの保育所など近隣との付き合いを広げていきたい。 ①自然に囲まれ立地条件が良い ②河川の近くで土手は交通量も少なく散歩コースになっている ③四季を五感で感じる事ができる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営するホームは、入居者、職員の健康管理に努めており「歩かないと足が弱くなる。寝たきりにしたくない。」という職員の思いがあり、利用者に寄り添い毎日の散歩を行っている。職員の対応は優しく、利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位でケアを行っており、利用者の表情が穏やかで明るい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム竹の園

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 清水 千明

評価完了日 平成21年 8 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ケアプラン作成時理念を落とし込んで作成する理念の共有に努力している</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合いを行い、地域とのつながりを大切にしながら一人の人間として接することの大切さを具体的に表現した理念になっている。職員間でしっかり共有しケアの実践に繋げることができている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 納涼祭などで地域の方に参加をお願いする 日常的には散歩の時など挨拶をして会話を持つ</p> <p>(外部評価) 日常的な散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり、ホームでの行事に招待したりしている。また、隣接する保育所からの訪問を受け入れたり、地域の障害者施設主催のそうめん流し等に参加するなど交流を行っている。</p>	<p>行事を通しての交流は行われているが、日常的なつきあいができているとまでは言えない。ホームとしても十分でないと考えており、今後普段着でのつきあいができるような工夫がなされることを期待したい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 出来ていない。 中学生の体験学習に協力している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域との関わりに一役かって貰っている	多角的な視点から意見がもらえるように、専門家に参加してもらう等、今後の取り組みに期待したい。
			(外部評価) 利用者や家族、地区の学識経験者、市の担当職員等の参加があり、ホームの実態報告やイベント開催のお知らせ等もしている。参加者からは活発な意見が出されており、出された意見は運営に活かすよう心がけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ参加して頂き新しい情報を得ている	
			(外部評価) 市担当者は、運営推進会議のメンバーで、ホーム内研修の依頼をすることもあり、気軽に相談できる良好な関係を築いている。介護相談員も、年2回来園してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の人権を守る事を認識し、身体拘束は行っていない	
			(外部評価) 外部の研修会や内部の研修を行ったり、日々の業務の中で十分に話し合いを行い、職員全員で拘束をしないケアに心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的、介護放任、情緒心理、性的など虐待は無し。 日常の言葉使いに注意している	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ご利用者が最後まで人生の主演として尊厳を保てるよう日々の介護にも努力している 研修にも参加している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に本人・家族に説明し理解を得ている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情意見箱の設置。月一回の来園時には家族とケアサービスについて話をする できている	
			(外部評価) 利用者、家族が運営推進会議に出席し、意見や思いを表せる場を設けている。また、職員は家族の面会時にも意見を聞く努力をしており、利用者一人ひとりの意見や要望を運営に反映させるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年1回施設長との面談もあり、勉強会などで話し合う事もあり、反映できている (外部評価) 月1回行われる勉強会や、年1回の施設長との面談で意見や提案を聴く機会を設けている。管理者等は職員の意見を運営や経営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給や夜勤手当がUPした	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会・ユニット会などで話し合い意見交換している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のGHと交流し意見交換やサービスの質向上に努めている	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族より日々のライフスタイルの情報を得る。 本人よりゆっくり話を傾聴する	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族に見学して頂き、不安や要望を聞き相談する	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族との交流・情報交換を密にする 本人の話を傾聴する	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事準備、調剤を切ったり洗濯物をたたんでもらったり出来ることをして頂く。 入居前の話などを聴く、教えられる事も多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態。情報を伝える 困った事など相談し良い信頼関係を作る	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの理容院で散髪したり、出張して貰う 他GHの交流会で馴染みの人に逢う事ができる (外部評価) 利用者のほとんどが地元出身者で、手作りのお菓子など持参してくれる地元の知り合いとの交流がある。また、他のグループホームとの交流で馴染みの人と逢うこともできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食前食後のテーブル拭き「有り難う」言葉のかけ合いがある。食器片付けの協力もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族と暮らす為対処された方、時々様子をみにスタッフが訪れたり、本人も来園される（月1回くらい）	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや意向を知る為には、日常スタッフの観察力も必要であり統一した介護をし、介護能力のレベルUPに努力していく (外部評価) 希望や意向の把握に努めている。意向を上手く伝えられない利用者の場合は、家族等から聞き取りした情報等を活用し常に利用者本位で考えるよう努めている。把握した情報はセンター方式を活用して記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が来園のおり生活歴や生活環境など把握し、また利用者本人の話も傾聴する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの表情や行動など観察し、体調に気配りしながら生活支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) モニタリング・計画作成の見直しを3ヶ月に1回実施また利用者の状態が急変した時は直ちに作成の見直しを行っている	
			(外部評価) 介護計画は家族の面会時に希望や意見を聞き取るようにしている。計画の見直しは3か月に1回の定期と状態が変化した時に行っている。気づきは1か月毎に記録簿に記入して整理する等、情報を職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に本人の希望や気づき、日常の観察力が大切である	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出・外泊・ショッピング・里帰り他利用者の要望に、その場、その時のニーズに対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 状況に合わせて協力しながら支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の意向に合わせて支援を行っている (外部評価) 入居前からのかかりつけ医や、利用者や家族が希望す る医療機関を受診している。通院介助は職員が対応 し、緊急時は家族にも必ず同行してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携体制を取っている。 個々の利用者の健康管理の支援をしている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院された時は医療機関と連携し利用者が安心される よう協力している。洗濯物を取りに行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族と話し合い意向を十分にくみ取り納得出来るよう対 処する (外部評価) 看取りに関する指針が整備されており、利用者や家族 が希望をすれば、看取りができることを利用開始時 に伝えている。利用者が安楽に終末期を迎えるために、 職員全員が研鑽に努めている。	終末期を迎える利用者やその家族を心身ともに支えて いくことができるよう、職員が研鑽できる研修等の機 会を増やし、技術や知識をさらに高めることを期待し たい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 体調が急変した時のマニュアルが作成されている 応急手当、人工呼吸などの研修がある	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、消防訓練を年2回実施している (外部評価) 実践的な避難訓練を消防署の協力を得て、定期的に年2回行っており、緊急連絡網も整備されている。来年度にはスプリンクラーを設置する予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳を持ったサービス提供と、声掛け時など、言葉に注意している (外部評価) 不安感のある利用者に対し、職員はその都度優しく声かけしており、心落ち着くまで何度もこやかに対応する様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来ない利用者に対しては、家族と職員で話し合いをする	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースで一日を過ごされている 思いや色々な訴えにも対応している。 支援の先取りをしない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が気に入った服を着られる。 本人が馴染みの理容店に行かれている（送迎する）	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来ること野菜を切ったり、削ぎきりをしたりして食事中話題になる。 食器の片付けなど職員と共に行う	
			(外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでおり、食事風景は大変穏やかで、何度も「美味しい、美味しい」という声が聞かれた。食後の下膳や台拭きを利用者が行っている時は、職員は無理のないように見守りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) いつでも飲用できるお茶を準備している 夜間は部屋に、就寝前などに飲用される。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けする。出来ない人は介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿間隔の近い方は、2時間おきに介助する 自立の方は見守りを行う・介助が必要な方は訴え時に介助している	
			(外部評価) 日中は排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行いながら、トイレを使用している。夜間は利用者の状況に応じて紙パンツや尿取りパットを使用している。周囲に十分な配慮を行ないながら、声かけや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給・運動・服薬など個別に応じ対処をしている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員数の関係で夜間の入浴はしていない。 入浴拒否があれば、次の日に実施	
			(外部評価) 利用者からは毎日入浴したいという希望もあるが、毎日の対応は難しく、部分浴や清拭を行う等の代替策を取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり仮眠されたり、夜間は良く休まれている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一日分の薬の仕分けをして、確認しながら与薬している 個人別に間違わないよう区別している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 散歩に行く人、川柳を作る人、 ショッピングの希望に対応し、好きな物を買われるなど支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとに外出・外食・ショッピングに出かけている 年2回の家族との交流会がある（5月花見・8月納涼祭	
			(外部評価) 「歩かないと、足が弱くなる」との職員の思いがあり、毎日散歩に出かけている。また、利用者から外食の希望がある場合は、回転ずしに行くなど対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持して、ショッピングの支払い・新聞代など支払われる。散歩途中で飴・菓子など買われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙の代筆を頼まれたり、電話で近況を知らせたりする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 周囲が自然に恵まれているので、季節を感じ（夏にはカーテン・室内に季節の花を生け・子供の声も良く聞こえる）児童保育の子らと話をすることもある。	
			(外部評価) 大きな窓からは適度の光が入り、緑豊かな景色が見られ、玄関等に季節の花が飾られている。適度な広さの共用空間には隣接した児童館からの子供達の声が聞こえ、人とのつながりを感じさせる落ちついた空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳3畳にコタツを設置・2人、3人掛けのソファがある	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの椅子・Pトイレ・机・本などを持ち込まれている。 利用者さんによって違いがある。	
			(外部評価) 居室の名札は手作り、それぞれの入居者の目の高さに合わせた位置にあり分かりやすい。馴染みの家具を持参することもでき、ベッドの使用を好まない利用者には、畳を敷いて布団を使用する等状況に合わせた対応をしている。本や家族の写真を飾り居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの取り付け・バリアフリー・トイレの目印など	